

## 2024年度第1回小倉競馬特別レース名解説

### <第1日>

#### ○ 響灘特別

響灘（ひびきなだ）は、福岡県の北東方、山口県の西方の海域。西は玄界灘に続き、冬季は季節風が強く吹くことから、古来より大陸への重要航路であったとされる。沿岸には古代の遺跡が多く見られ、中国大陸や朝鮮半島との交流が深かったことを今に伝えている。

#### ○ 小郡特別

小郡（おごおり）は、山口県山口市にある地名。江戸時代には山陽道の宿場町として栄え、1975年に山陽新幹線、1983年に中国自動車道が開通し、山口県の玄関口として重要な役割を果たしている。

なお、同地にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ小郡がある。

#### ○ 農林水産省賞典愛知杯（GⅢ）

本競走は、1963年に創設された重賞競走。当初は、外国産馬以外のすべての馬に出走資格が与えられていた。1972年には、内国産種牡馬の奨励と保護の一環として父内国産馬限定競走、2004年からは牝馬限定競走に改められた。

### <第2日>

#### ○ 玄海特別

玄海（げんかい）は、玄界灘に面する地名。リアス式の海岸部は国定公園に指定されている。玄界灘は、対馬海流が流れ、日本近海でも有数の漁場である。西は対馬海峡、東は響灘に連なる。

#### ○ 壇之浦ステークス

壇之浦（だんのうら）は、山口県下関市の市街地東端、関門海峡の東の海域である早鞆瀬戸（はやとものせと）に臨む海岸。源平合戦最後の戦場として知られる。関門トンネル・新関門トンネル・関門橋が集まる交通の要衝で、安徳帝を祀る赤間神宮など史跡が多い観光地でもある。

#### ○ 門司ステークス

門司（もじ）は、北九州市の区。同地区は、九州の北端に位置し、関門海峡を隔て、山口県下関市と相對している。門司港は、国際貿易港として繁栄し、旧門司三井倶楽部や旧門司税関などの歴史的建造物を活かしたレトロな街としても知られ、北九州市の代表的な観光名所となっている。

## <第3日>

### ○ 萌黄賞

萌黄（もえぎ）は、萌え出た若葉のような冴えた黄緑系統の色。古来より用いられ、平安時代には若者向けの色として愛好された。

### ○ 戸畑特別

戸畑（とばた）は、北九州市にある区。毎年7月に催される「戸畑祇園大山笠」が有名。同行事は国の重要無形民俗文化財に指定されており、福岡県夏の三大祭りのひとつとして「提灯山」の愛称で広く親しまれている。

### ○ 和布刈特別

和布刈（めかり）は、北九州市門司区の地名。名は、和布刈神社に由来する。「和布刈」とは、わかめを刈り取ることを意味し、同神社では旧暦の元旦に神官がわかめを刈り取る行事「和布刈神事」が行われている。

## <第4日>

### ○ 八幡特別

八幡（やはた）は、北九州市にある区。1963年に八幡市から北九州市八幡区となり、1974年に東西に分区した。明治時代に操業を開始した官営八幡製鐵所は、2015年に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成遺産となっている。

### ○ 海の中道特別

海の中道（うみのなかみち）は、福岡市東区にある玄界灘と博多湾を区切る砂州。架橋で志賀島と結ばれている。江戸時代に植えられたクロマツによる白砂青松の景勝地で、志賀島とともに玄海国定公園の一部を形成する。国営の「海の中道海浜公園」などがあり、行楽地となっている。

### ○ 豊前ステークス

豊前（ぶぜん）は、旧国名で、現在の福岡県東部と大分県北部に当たる地域。また、福岡県東部の周防灘に臨む市。沿岸漁業・海苔の養殖のほか、金属・電子工業などが発達している。内陸では米・果樹・茶などの栽培が盛ん。

## <第5日>

### ○ 牛若丸ジャンプステーキス

牛若丸(うしわかまる)は、源平合戦で大活躍した源氏の武将、源義経の幼名。義経は、壇ノ浦の戦いで敵将平教経と遭遇した際に、8艘の船を次々と飛び移ったと伝えられ、その様子は「八艘飛び」という伝説として知られている。

### ○ 足立山特別

足立山(あだちやま)は、北九州市小倉北区と小倉南区の境に位置する標高597mの山。和気清麻呂が足を負傷した際、同山の麓にある温泉に入ったところ快癒し、「立たなかった足が立った」という伝説からこの名前がついたと言われている。また、霧の発生が多いことから別名霧ヶ岳とも呼ばれる。

### ○ 平尾台特別

平尾台(ひらおだい)は、福岡県北東部に位置する石灰岩台地であり、日本三大カルストと呼ばれる。国の天然記念物に指定されており、北九州を代表する観光地のひとつとなっている。

### ○ 周防灘特別

周防灘(すおうなだ)は、瀬戸内海最西部に位置する水域。山口県南岸と九州北東岸に囲まれ、西は関門海峡で響灘に通じ、東は祝島と国東半島北方の姫島を境として伊予灘に接する。広大な干潟が存在し、貴重な野鳥が数多く飛来することでも有名。

## <第6日>

### ○ くすのき賞

くすのき(樟)は、クスノキ科の常緑高木。日本では九州に多く生息しており、長寿で高さ20m以上の大木になる。葉は卵形で先がとがり、光沢がある。5~6月にかけて黄緑色の小花をつける。また、防虫剤や医薬品に広く利用されている天然樟脳(しょうのう)が採れる。

### ○ 日田特別

日田(ひた)は、大分県西部の市。江戸時代には、日田金で有名な九州の金融の中心地であった。市街を流れる三隅川沿いの水郷地帯は耶馬日田英彦山国定公園に属し、咸宜園(かんぎえん)跡などの史跡も多い。周辺の山地は全国屈指の杉(日田杉)の産地である。また、北端の皿山は小鹿田焼(おんたやき)で知られる。

## ○ 巖流島ステーキス

巖流島（がんりゅうじま）は、山口県下関市、関門海峡に浮かぶ船島の別名。宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘した場所として有名であり、敗れた佐々木小次郎の流儀「巖流」をとって巖流島と呼ばれるようになった。

## <第7日>

### ○ かささぎ賞

かささぎ（鶺鴒）は、スズメ目カラス科の鳥。佐賀県の県鳥。「カチカチ」という鳴声から、カチガラスとも呼ばれる。日本では、佐賀平野を中心とした地域に生息しており、それらの地は国の天然記念物に指定されている。

### ○ 有田特別

有田（ありた）は、佐賀県西部、有田川の上中流域を占める西松浦郡の町。有田焼の産地として知られ、例年大規模な陶器市が開かれる。有田の陶業は、朝鮮出身の陶工・李參平が17世紀初頭、泉山で良質な白磁鈷を発見し、日本で初めて磁器を焼くことに成功したとされている。

### ○ 別府特別

別府（べっふ）は、大分県中部、別府湾奥にある市。湧き出るお湯の量が豊富なことに加え、8つの温泉郷からなる「別府八湯」や地中から湧き出る蒸気を楽しむ「地獄めぐり」など、温泉観光地として有名。温泉熱を利用した研究所・療養所・保養所などの施設が集中している。

## <第8日>

### ○ 合馬特別

合馬（おうま）は、北九州市小倉南区の地名。名は、大化の改新により「駅伝の制」が導入された際、都と全国の国府を結ぶ幹線道路上の駅に、官吏公用で諸国へ行く者の為に備えられていた馬（駅馬）が、当地にて落ち合い鼻を突き合わせたことに由来する。なお、周辺の竹林で採られる筍は「合馬たけのこ」として知られる。

### ○ 由布院特別

由布院（ゆふいん）は、大分県中部、由布市の温泉地。周囲を由布岳や黒岳などの1,000m級の山に囲まれた盆地である。地名の由来は木綿（ゆふ）の産地であったこと、古代に租税を収蔵する倉院が設置されていたことからという説がある。

## ○ 小倉日経オープン

日経は、東京と大阪に本社を置く日本経済新聞社が発行する日本経済新聞の略称。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。